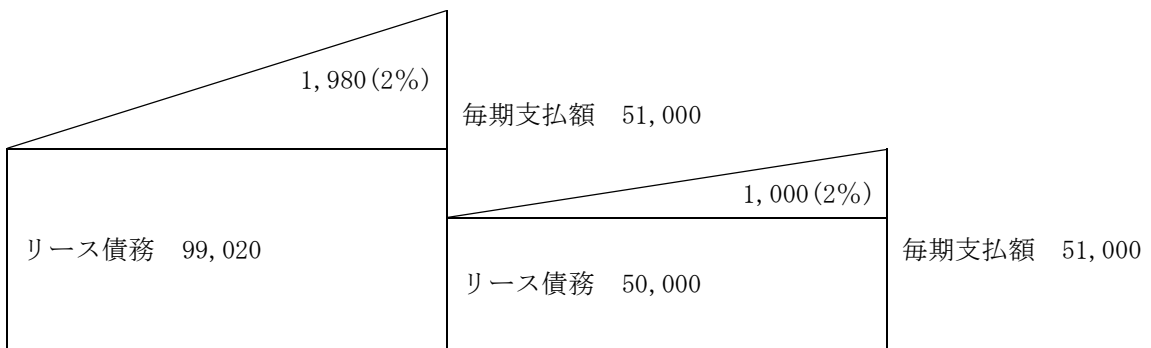


【例題】以下の条件に基づき、ファイナンス・リース取引の一連の仕訳を示しなさい。

1. 当社は以下の条件で所有権移転外ファイナンス・リース取引により物件の供与を受けた。
 解約不能のリース期間：X1年4月1日～X3年3月31日（経済的耐用年数と一致）
 リース債務の支払条件：X2年3月31日及びX3年3月31日に51,000円を後払にする。
 当社の追加借入利率：年2%（借手である当社は貸手の計算利率を知り得ない）
 当社の見積現金購入価額：100,000円
 当社の減価償却方法：定額法（残存価額を0円とする）
2. 当社の決算日は、毎期3月31日である。
3. 計算に当たり、小数点以下の数値は四捨五入を行う。

【図解】



※ X2年3月31日 リース債務残高 50,000 = 51,000 ÷ 102%

※ X1年4月1日 リース債務残高 99,020 = (51,000 + 50,000) ÷ 102% < 100,000

【仕訳】

X1年4月1日

リース資産 99,020 リース債務 99,020

X2年3月31日：リース債務の支払

リース債務 49,020 現金預金 51,000

支払利息 1,980

X2年3月31日：減価償却

減価償却費 49,510 減価償却累計額 49,510

X3年3月31日：リース債務の支払

リース債務 50,000 現金預金 51,000

支払利息 1,000

X3年3月31日：減価償却

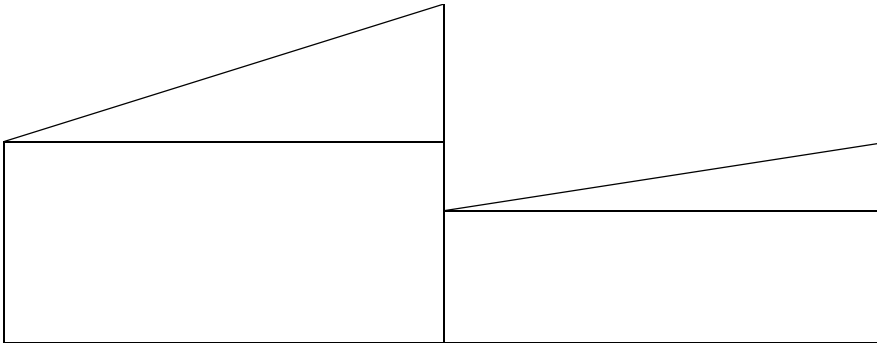
減価償却費 49,510 減価償却累計額 49,510

※ 毎期3月31日 減価償却費 49,510 = 99,020 ÷ 2

【例題】以下の条件に基づき、ファイナンス・リース取引の一連の仕訳を示しなさい。

1. 当社は以下の条件で所有権移転外ファイナンス・リース取引により物件の供与を受けた。
解約不能のリース期間：X1年4月1日～X3年3月31日（経済的耐用年数と一致）
リース債務の支払条件：X2年3月31日及びX3年3月31日に51,000円を後払いする。
当社の追加借入利率：年2%（借手である当社は貸手の計算利率を知り得ない）
当社の見積現金購入価額：100,000円
当社の減価償却方法：定額法（残存価額を0円とする）
2. 当社の決算日は、每期3月31日である。
3. 計算に当たり、小数点以下の数値は四捨五入を行う。

【図解】



【仕訳】

X1年4月1日

X2年3月31日：リース債務の支払

X2年3月31日：減価償却

X3年3月31日：リース債務の支払

X3年3月31日：減価償却
